

第8回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要について

1 会議の日時等

開催日時 令和3年10月15日(金)10時00分～11時45分(県庁北新館5A会議室)

出席委員 原 清治 大野裕己 徳久恭子 炭谷将史 坂口明德 高田 毅 樋口康之
稲葉芳子 権並裕子 中作佳正 上原重治 徳田 寿 中山郁英 北山智基

◇これからの県立高等学校の在り方について

2 委員からの主な意見

■答申(案)について

①	P11「6 将来の社会の姿」の「(4) 持続可能な社会の実現(SDGs)と多様な価値観が尊重される社会」について、多様な価値観の尊重は以前から言われてきたことであることから「一層求められる」等の表記を追加した方がいいのではないか。
②	「滋賀」に学び、「滋賀」で学び、最終的に滋賀で住んでほしいということから考えると、「1 背景と趣旨」に、SDGsの目標「住み続けられるまちづくりを」を追加してもいいのではないか。
③	P19「5 目指す姿」の「②生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる」について、国際社会で活躍する人材育成の観点から、人種・宗教も含めた多様性の尊重の記載があった方がいいのではないか。
④	P23「ウ 多様な学習ニーズ等への対応」の「(1) 特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実」は「目指す姿⑥」の共生社会の実現に向けた教育とともに、「目指す姿⑦」の生徒による自らに合った学びの選択にも対応しているのではないか。
⑤	P30「コ 持続可能な推進体制の構築」の「(2) 働き方改革の推進」について、教職員の数を増やすことも記載してはどうか。働き方改革の推進とあわせて教育の質を向上させるには、教員の努力だけでは大変ではないか。
⑥	日々の授業は、働くこと、生きることに繋がっていることを、生徒に意識させることが重要。P22「イ キャリア教育の充実」の「(1) 小中学校と高等学校、大学等の連続性を踏まえたキャリア教育の推進」について、「取組」ではなく、「学びの改革」といった表記にした方がいいのではないか。
⑦	ICT活用による授業の形態は日々変化している。P29「ク ICTの活用」の「(1) 全ての県立高等学校でICT環境の充実・更新」について、「学校の枠に留まらない」といった建物の構想ではなく、「学校単体の限界を超えた高校教育の構築」といった学びの構想を含めた表記にしてはどうか。
⑧	P22「イ キャリア教育の充実」の「(1) 小中学校と高等学校、大学等の連続性を踏まえたキャリア教育の推進」について、「社会的責任を負う成人」といった積極的な表記を盛り込んだ方がいいのではないか。
⑨	P29「キ 生徒数減少への対応」の「(5) 学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究」について、生徒の主体的な活動である生徒会活動についても記載してはどうか。
⑩	P30「ケ 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成」の「(1) 優秀で意欲のある人材の確保」について、もう少し具体的な方向性を明記してもいいのではないか。
⑪	P31「コ 持続可能な推進体制の構築」の「(3) 経営方針の明確化」について、教職員だけでなく地域も含めた主体的な検討が必要ではないか。
⑫	P30「ICTの活用」の「(3) 教職員のICTを活用するための研修等の充実」について、具体的にICT支援員の活用を明記してもいいのではないか。

⑬	P31「サ その他」の「(1) モデル校等による取組内容の実践・研究」について、地域の協力や応援を得るためにも、実践・研究した成果を広く発信することが重要ではないか。
⑭	生徒の学びを支援するには、教職員一人ひとりの力量だけではなく、教職員集団としての組織的な力量発揮が求められる。P30「ケ 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成」の「(2) 研修の充実」について、「組織的な対応」等の文言を追加してはどうか。
⑮	教育は滋賀にとって大変重要。P33「3 将来に向けた議論の必要性」について、生徒数は減少していくが、生徒一人あたりにかける教育予算は拡充していくといった方向性を明記してもいいのではないか。
⑯	P33「3 将来に向けた議論の必要性」について、県教育委員会が魅力化の方向性を提示してくれるのはありがたい。同様の文言がP24の12行目～13行目にかけて記載しているが、ここには「魅力化の方向性を提示」ではなく「学校配置」という表記になっていて分かりにくい。「魅力化の方向性を提示」と表記してはどうか。
⑰	滋賀県の高校教育を考える上で、公立完結ではなく私学の役割といった視点も含めて考えていただきありがたい。
⑱	私立高校との関係や入学者選抜については、それぞれ、公私立高等学校協議会や入学者選抜方法等改善協議会の場で建設的な議論をしてほしい。
⑲	P34「V おわりに」について、高校の魅力化には教職員の力は不可欠だが、教職員の過剰負担にならないように、県教育委員会の支援等の表記を追加してはどうか。
⑳	魅力化には、学校の先生方、あるいは学校からの発信や改革の方向が欠かせないと思うし、検討委員会の議論の肝の部分だったと思うので、学校の裁量権を認めるという表記を、もう少し強い書きぶりにしてもいいのではないか。
㉑	この検討委員会は、高校を再編するとか統合するという議論をしてきたわけでは決していない。どういう高校教育を提供して県立高校を魅力化するかという議論であり、将来を見据えた整理の中で、再編統合ありきの議論ではなかったことは確認できる。

■答申に込めた思いや、今後の滋賀県の高校教育に期待すること等について

①	この答申は、これから県立高校に進学する生徒たちに示せる内容に仕上がったと感じている。高校の魅力化は、教職員の内発的なイノベーションにかかっており、今後の教育行政としては、その環境や条件をどう整えるかをこだわってほしい。
②	滋賀県のどこに住んでいても、質の良い教育を提供すべきといった議論をさせていただいた。今後、県立高校の魅力化をどのように実践しているのか教えていただけたらありがたい。
③	重要視しているポイントが、しっかりと盛り込まれた答申になっていると感じている。これからの学力の在り方というものが変わっていく中で、学力の三要素の総合的な引き上げ等についての議論がもう少しできたらよかったと感じている。
④	今後、ますます高校の特色化は進んでいくので、各校の特徴的な学び等の情報を、保護者や中学校の先生等に積極的に発信していただきたい。
⑤	中学生が高校を選択する上で、この高校に進学すればこんな学びができるといった情報は非常に重要だが、現状として十分に中学生に伝わってきていない。各校の情報が中学校にしっかり発信される仕組みを構築していただきたい。
⑥	今後の県立高校に求められるポイントが、多方面からしっかり網羅された答申になっている。同時に、県立高校に対する期待の大きさも感じている。県立高校の魅力化を図るには人的措置を含む環境整備は重要であり、県教育委員会の支援をいただきたい。
⑦	多様な学習ニーズ等への対応について、しっかり議論できたと感じている。誰もが安心して学べる学校づくりが進んでいき、それが魅力につながってほしいと感じている。
⑧	私学の役割について、しっかりと盛り込まれた答申になっておりありがたい。中学生やその保護者にとっては、私学も進学先の選択肢に入っており、私学の役割も尊重していただきたい。 生徒数が減少していく中で募集定員の在り方については、私学の学校経営の厳しさといった視点も踏まえて、公私立高等学校協議会等の場で建設的な議論をお願いしたい。また、入学者選抜の在り方についても、課題を整理し改善を図っていただきたい。

⑨	時代はめざましく変化していくので、時代の変化に対応した特色化を図る必要があると感じている。また、生徒の自発的・自治的な活動を推進することで、人口が減少していく中でも、人の力というものは向上していくと思っている。
⑩	これからの高校教育の役割は「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育であり、あわせて中江藤樹先生の教育者としての姿も、これからの高校教育の目指す方向性として位置づけられていると感じている。県教育委員会には、これらの教育を進めるためにも働き方改革にしっかり取り組み、学ぶことに関して好奇心あふれる高校生を育成していただきたい。
⑪	小中高の連携事業や地域との連携・協働活動を進めることは、様々な夢のある実践につながるのではないかと考えている。また、近年、不登校の生徒が多いことから、学び直しやキャリアの再形成等に応える教育活動が行われている定時制・通信制を活用し、多様な生徒の進路保障に努めたいと考えている。
⑫	答申をまとめて終わりではなく、本当に大切なのはこれからだと思っている。地域で活動する者の一人として、これからも魅力ある高校づくりの取組に協力したいと考えている。
⑬	滋賀の魅力伝える方策を考えることの難しさを痛感した。今後は、湖北地域の県立高校の魅力化について考えていきたい。
⑭	委員の皆さんのご協力のおかげで、建設的な意見交換ができたと思っている。今後も、滋賀県の高校教育に関わっていきたいと考えている。風光明媚な滋賀県の子どもたちは、みんな明るく生き生きとしている。本検討委員会では、滋賀県の風土や県民性を答申に盛り込み、高校生の生きる力の育成に転換していくことを確認できたと思っている。